



俳句

稲井爽秋 選

身に添ひし田舎の暮し麦の秋  
朝日浴び青田一面光る露  
せせらぎに灯の映ゆる鮎料理  
波が波押す七月の海の綺羅  
炎天や石鉾の峰堂々と  
真夏日の真昼物音絶えにけり  
夾竹桃咲いて静かや城下街  
水行の滝の真芯に立ちにけり

高橋和子  
徳永洋子  
大森妙子  
木原美寿子  
菅 博武  
秋山露子  
青野義明  
藤崎 泉

川柳

伊藤凡々 選

守らねば先祖の汗のしみた土地  
ありがとう今日も汗して七変化  
エコとケチわが家の生活ケチの勝ち  
手術した痔が心地よい友安堵  
手加減をしながら本気出でしまふ  
忙がしく餌やる鯉の口だらけ  
はじめての寝返り可愛い孫の笑み  
連休のみやげ話は人の山

小島文子  
三谷福美  
渡部真利子  
石川キミ子  
丹 而浪  
大橋桃代  
大谷道子  
秋山繁雄

短歌

藤田虎雄 選

わが寺の晋山式の鐘の音の余韻が春の村里つ  
つむ  
八堂山はあかき灯つらなりて夜の早苗田蛙鳴  
き満つ  
白壁に柘榴の古木生け花のごとく五弁の鮮や  
かな紅  
子を見舞ひ帰る炎暑の沿道に褪せしあじさい  
見るは切なし  
炎天下うちぬき水に口つけて喉を潤し走り去  
る子よ  
石鉾の峰にかかれる朝もやは憂き世のこを  
知らず漂う  
瀬戸の橋の梅雨晴れ涼し朝の海に漁船遠近数  
多く見ゆ  
伊勢志摩を見下ろす頬に南風の撫で入江の舟  
は白糸を引きゆく

森田 薫  
岡田久夫  
杉田知恵  
牧原あけみ  
菅 博武  
高塚靖樹  
矢野シヅエ  
黒川典子

俳句・川柳・短歌 作品募集

作品（俳句・川柳・短歌の別を書き、漢字にはふりがなを振ってください）・住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに担当課へ郵送・持参してください。

応募先  
〒793-8601 明屋敷164  
市庁舎本館 総務課 広報情報係  
TEL 0897-52-1204 (直通)

8月号に掲載したさいじょう文芸広場で、川柳の作者に誤りがありました。お詫びして、訂正いたします。  
[正] 毛利春子 [誤] 弓山鶴子

Your Friendly Neighbors

世界のゆかいな仲間たち

No. 41

ミネソタから日本へ  
～わが道“My Way”

私が西条市の国際交流員として愛媛県へ来たのは1年前のことです。自分が選んだというよりも、偶然西条市に派遣されました。大学時代に留学していた千葉県に比べると、確かに愛媛県の方が断然穏やかで大自然にあふれています。しかし、私たち日本に住んでいる外国人が、どこにいても必ず、ある程度経験せざるを得ないことがあります。

それは、外国人として特別扱いはされることです。例えば、外国の人がお箸を使えると褒められることがよくあります。頻りに言われ過ぎるせいか、これは日本に住んでいる多くの外国人の怒りのもとになっています。でも私は、実際に、自分の箸使いが人よりうまいなら、怒らなくてもいいかな…と少し自惚れることにしています。もちろん、外国人の経験はこのお箸の件に限りません。家族や恋人のこと、身長や靴のサイズを聞かれるのは日常茶飯事です。日本人は、日本の食文化が外国人にとって斬新なものだろうと思われかもしれませんが、「和食が食べられるんですか？」と聞くのも、もしかして特別な扱いではないのでしょうか。なぜかという、私たち外国人が自国にいて、日本人がハンバーガーを食べているのを見ても、「ハンバーガー食べられるの？」とは絶対聞こうと思わないからです。

しかし、どこにいるかに関わらず「なぜ日本が好き？」という質問には常に答えてきました。今までいろいろな答えをしたことがあります。食事がおいしいからとか、映画や音楽が違って面白からとか、大江健三郎の文学にはまったからなどです。けれども今は、私の人生はたまたま日本に大きくなってきたのだと思います。外国人でも日本人でもなく、私は世界の中に生きています。それがミネソタから日本へとたどり着いたわが道“my way”なのです。



▲国際交流員

●ケイレブ・デマレーさん

特集記事 支所便り S I C S 情報最前線 お知らせ 催し 講座・教室 募集 施設ガイド 心のこもった産品 カメラスポット 文芸広場他 各種相談 人権・同和教育他 保健センター 心のこもった探訪他